

2 番	颯田季央 議員	
質問タイトル (大項目)	質問項目 (中項目)	具体的質問内容 (小項目)
<p>1、瀬戸市における小中学校の不登校支援について</p> <p><b>【質問趣旨】</b> 文部科学省から発表された令和4年度の「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果」によると、小・中学校における不登校児童生徒数は29万9048人であり、前年度から5万4108人(前年度比22.1%)増加し、過去最多であった。不登校の内訳は、小学校が10万5112人(前年度比29.0%)増加、中学校が19万3936人(前年度比18.7%)増加である。10年前と比較すると小学生は3.6倍増加、中学生は2.1倍増加となっている。</p> <p>(次ページに続く)</p>	<p>(1) 瀬戸市の不登校の状況について</p> <p>(2) 不登校の原因分析と対応について</p>	<p>①令和4年度の全国の不登校児童生徒数は小学校約10万人(1.7%)、中学校約19万人(6.0%) 長期欠席者数は約46万人であった。この状況についてどのように捉えられているか見解を伺う。</p> <p>②瀬戸市小中学校における令和4年度の不登校児童生徒数は小学生137名(2.1%) 中学生226人(6.8%) 合計363人(3.7%) であり、平成30年度から令和4年度にかけて約3倍に増加している。この状況についてどのように捉えられているか見解を伺う。</p> <p>③瀬戸市における令和4年度の不登校児童生徒の学習の場は校内 196人(53.8%)、オアシス 21 31人(8.5%)、フリースクール13人(3.6%)、校外3人(0.8%) 学習の場無し127人(34.8%) であるが、この状況についてどのように捉えられているか見解を伺う。</p> <p>④瀬戸市における不登校傾向にある生徒数について把握されているかを伺う。 *不登校傾向(年間30日未満7日以上欠席、教室外登校、部分登校、仮面登校)</p> <p>⑤不登校または不登校傾向に対して、瀬戸市としてどのような問題意識を持たれているかを伺う。</p> <p>①文科省の発表によると令和4年度の不登校の理由は無気力、不安が51%と最も多く、生活リズムの乱れ、遊び、非行11.4%、いじめを除く友人との人間関係9.2%、親子関係7.4%、学業不振4.9%であり、少ないものはいじめ0.2%、教員との関係1.2%、学校の決まりをめぐる問題0.7%であった。瀬戸市ではどのように原因を把握され、どう捉えられているか見解を伺う。</p>

- 備考 1. 必ず、大項目を【1、2、3・・・】、中項目を【(1)、(2)、(3)・・・】、小項目を【①、②、③・・・】として明記し、質問内容、要旨等の具体的かつ明瞭化に努める。  
2. 数値の答弁を求める場合は、必ずその旨を記載する。また、過去の経緯、他市の状況等の答弁を求める場合も、同様の扱いとする。  
3. MS明朝体、12ポイントで記載する。

2 番	颯田季央 議員	
質問タイトル (大項目)	質問項目 (中項目)	具体的質問内容 (小項目)
<p>しかし、実際にはこの数字以上に、学校へいけない子供の存在があることへの警鐘も鳴らされている。</p> <p>瀬戸市教育アクションプランの基本的方向性には「自ら考え、学び、生き抜く力」を育成する方向性が示され、「多様性の尊重」「横の連携・協働」「縦の接続」「信頼の構築」の視点を持って様々な施策を展開していくとしている。アクションプランの実現が不登校問題の解決に大きく関係すると考えられるが、瀬戸市でも不登校児童生徒は増加しているため、学びの場や機会をどのように保障していくかが課題である。瀬戸市における不登校の現状と取り組みの確認、今後どのように不登校対策・教育環境の改善に取り組んでいく予定かを伺う。</p>		<p>②文科省の示す不登校支援では、i) 必ずしも「学校登校」を最終ゴールとしない、ii) 児童生徒が自ら主体性をもって進路に向き合い、自立することを目指す、iii) 児童生徒によっては、不登校という期間が重要な休息期間となる場合があるが、不登校によって生じる勉強の遅れ、進路選択の不自由などのリスクを念頭に置く必要があるという、i) ～iii) を基本的な考え方としている。令和5年3月に通知された「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策について」(COCOLO プラン)には「学びの保証」に重点が示されている。瀬戸市では不登校児童生徒へどのような対応と居場所づくりを行っているかを伺う。</p> <p>③瀬戸市では居場所支援として、令和5年7月から「せと “ここ” ほっとルーム」を開所した。特徴と利用状況・課題について伺う。</p> <p>④SC (スクールカウンセラー) やSSWer (スクールソーシャルワーカー) の配置状況と予算額を伺う。</p> <p>⑤瀬戸市には学校外の居場所としてオアシス21があるが、COCOLO プランには不登校特例校を増やすと方針が示されている。不登校特例校設置について見解を伺う。</p> <p>⑥COCOLO プランには中学を卒業した生徒が、不登校で受けられなかった授業を改めて受け直すことができる場所を作っていくことも示されているが見解を伺う。</p> <p>⑦フリースクールやオルタナティブスクールなどの通いの場が瀬戸市には何ヵ所あり、そこへの利用料支援を行う予定があるか伺う。</p> <p>⑧学習の場に行けていない不登校児童生徒への学びの保障について、どのような取り組みをされているか伺う。</p> <p>⑨不登校児童生徒におこる問題として学力低下・学習の遅れの課題がある。その課題に対して ICT 活用は有効であると考えられるが、瀬戸市での家庭学習タブレットは有効に使用できているか伺う。</p>

- 備考 1. 必ず、大項目を【1、2、3・・・】、中項目を【(1)、(2)、(3)・・・】、小項目を【①、②、③・・・】として明記し、質問内容、要旨等の具体的かつ明瞭化に努める。
2. 数値の答弁を求める場合は、必ずその旨を記載する。また、過去の経緯、他市の状況等の答弁を求める場合も、同様の扱いとする。
3. MS明朝体、12ポイントで記載する。

2 番	颯田季央 議員	
質問タイトル (大項目)	質問項目 (中項目)	具体的質問内容 (小項目)
	(3) 不登校の予防について	<p>⑩不登校の子供たちや家族が想いを共有し、情報を得ることが可能なグループやその活動への支援が存在するか伺う。</p> <p>⑪高校進学以外の選択肢として、就職を斡旋するための ICT を活用したマッチングや、社会に出て働く知識や技術を獲得するための教育を行う学びの場の創設等が必要ではないかと考えるが見解を伺う。</p> <p>①文科省の不登校児童生徒を対象とした調査結果によれば、「学校に戻りやすいと思う対応は」という問いに対し、「特にない」が57.1%とかなり高い数値であった。このことから、学校に行かない選択をした子供を学校に戻そうとしても困難であり、そうなる前に予防する事が重要である。瀬戸市では予防に対してどのような取り組みを行っているのか伺う。</p> <p>②不登校理由の中で最も多い無気力、不安といった情緒的不安は、潜在的な内発的学習意欲が低下している環境が要因の一つであるともいわれる。発達心理学者の筑波大学櫻井茂雄教授によれば内発的学習意欲の源は有能感と自己決定感と他者受容感の三つの要因が混ざって起こると報告している。予防として内発的学習意欲の向上を図る取り組みが効果的と考えるが、見解を伺う。</p> <p>③主体的・対話的で深い学びの実現には授業の改善の前に、子供たちの心理的安全性が保たれた学級、教員と子供同士の関係の質の向上を作る機会が重要である。その手段の一つに「クラス会議」があり、様々な効果が報告されているが「クラス会議」についてどのような認識か伺う。</p>

- 備考 1. 必ず、大項目を【1、2、3・・・】、中項目を【(1)、(2)、(3)・・・】、小項目を【①、②、③・・・】として明記し、質問内容、要旨等の具体的かつ明瞭化に努める。
2. 数値の答弁を求める場合は、必ずその旨を記載する。また、過去の経緯、他市の状況等の答弁を求める場合も、同様の扱いとする。
3. MS明朝体、12ポイントで記載する。

2 番	颯田季央 議員	
質問タイトル (大項目)	質問項目 (中項目)	具体的質問内容 (小項目)
	(4) 適切な対応が可能な人員配置・職場環境の整備について	<p>④沖縄県北谷町ではクラス会議導入後、学級生活満足度が上昇し、いじめの早期発見と対応、授業態度改善といった副産物があったことが報告され、今年度からはクラス会議推進委員を各学校に配置し、町全体で取り組み始めているとのことである。瀬戸市での「クラス会議」導入のお考えを伺う。</p> <p>①文科省によると 100 人に 8 人の割合で通常学級に在籍する児童が発達障害の可能性があると報告された。発達障害はその子に合ったペースでの学習を提供することが重要である。瀬戸市では乳児検診から発達障害の人を支援する施設へつなげる体制が充実している。一方で発達障害が見落とされる又はグレーゾーンの子どもたちも一定数いることが懸念される。発達障害を見極めて対応をするためには一定の知識が必要だが、そのようなサポートを行える人材が各学校に在籍しているかについて伺う。</p> <p>②教員採用試験の倍率の低下など教員の成り手不足も問題となっているが、瀬戸市の教職員数や今年度の採用予定数は、現状の不登校への対応や教員の労働環境を改善できる人数配置となっているか伺う。</p> <p>③2021 年の改正義務教育標準法により小学校の 1 クラスの上限が 35 人とされ、順次移行が進められている。40 人から 35 人となったことで、個別対応をしやすい状況となっていくと言われているが、保育園での保育士配置基準は 4～5 歳児 (年長) では 30 人につき 1 人となっている。年度替わりと共に急に成長するわけではないため、小学校 1 年生の教員負担は大きいと予想されるが、支援体制が整っているか伺う。</p>

- 備考 1. 必ず、大項目を【1、2、3・・・】、中項目を【(1)、(2)、(3)・・・】、小項目を【①、②、③・・・】として明記し、質問内容、要旨等の具体的かつ明瞭化に努める。  
2. 数値の答弁を求める場合は、必ずその旨を記載する。また、過去の経緯、他市の状況等の答弁を求める場合も、同様の扱いとする。  
3. MS明朝体、12ポイントで記載する。

2 番	颯田季央 議員	
質問タイトル (大項目)	質問項目 (中項目)	具体的質問内容 (小項目)
		<p>④保育士配置基準は年齢によって異なるが、4～5歳児（年長）は1948年から70年以上変わらず30人につき1人となっている。目が行き届かなくなることで事故発生リスクが上がるだけでなく、発達に沿った保育をする為には、個々にあった最適な対応が必要である。一人ひとりに関わる時間を増やすためには、フォロー・対応する人数が必要と考えるが現状を伺う。</p>

- 備考
1. 必ず、大項目を【1、2、3・・・】、中項目を【(1)、(2)、(3)・・・】、小項目を【①、②、③・・・】として明記し、質問内容、要旨等の具体的かつ明瞭化に努める。
  2. 数値の答弁を求める場合は、必ずその旨を記載する。また、過去の経緯、他市の状況等の答弁を求める場合も、同様の扱いとする。
  3. MS明朝体、12ポイントで記載する。